

成長の変遷

リコーは1977年にOA（オフィスオートメーション）を提唱し、その後もデジタルの活用やサービスの提供を通じて、お客様の業務効率化や生産性向上に貢献。価値の提供地域もグローバルに拡大しました。

そして現在は、デジタルサービスの会社としてお客様の“はたらく”の変革を支え、働きがいと企業や経済の成長が両立する、持続可能な社会づくりに貢献しています。リコーはこれからも“はたらく”に寄り添い、お客様の生み出す力（創造力）を支え続けます。

“はたらく”に寄り添い続けるリコー

1936年
創業

1950年代～ 事務機分野進出

1955年、国内初の卓上型ジヤゾ湿式複写機「リコピー101」を発売し、事務機器分野に進出。事務作業の合理化に革命をもたらしました。



文書の複製を自動化

1970年代～ OAの提唱

1973年、世界初の事務用高速ファクシミリ「リファクス600S」を発売。1977年には、OA（オフィスオートメーション）を提唱。「機械にできることは機械に任せ、人はより創造的な仕事をする」ことを目指す考えは現在にも通じています。



遠隔地に文書を高速伝送

1990年代～ デジタル化・グローバル化

アナログ複写機からデジタル複合機へ移行。ネットワーク化・カラー化を推進しました。

2000年代～ サービス事業の拡大

ITサービスや各種デバイスの提供により、ワークスタイル変革を支援しました。



カラーでの複写・印刷を可能に



ハイブリッドワークを支援

2020年代～ デジタルサービスの会社へ

2020年、リコーは「はたらく人の生み出す力（創造力）を支える「デジタルサービスの会社」へと変革することを宣言。業界随一の販売・サポート体制でお客様に寄り添いながら、自社およびパートナー企業のデバイスやアプリケーション・サービスを組み合わせ、お客様の“はたらく”を変革します。



現場の業務をデジタル化

世の中の働き方の変化

- 「手書き」から「ワードプロセッサ」へ
- PCが一人一台へ

- カラーコンテンツが増加
- インターネット利用が拡大

- 通信高速化・大容量化
- ペーパーレス化が進展

- リモートワークの普及
- DXの加速
- AI活用が拡大

成長の歩み

OA分野で成長し、売上高1兆円企業へ

M&Aで海外販路を拡大し、売上2兆円へ

サービス事業を拡大

再起動 → デジタルサービスの会社へ

